
雨降る夜に.....

カルタ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨降る夜に……

【Zマーク】

Z8301Z

【作者名】

カルタ

【あらすじ】

夜の散歩が日課である大学生と、幽霊の女の子の五日間。他愛もない会話と、少しの笑い、感動をどうぞ！

(前書き)

少しコメディー混じりですが文学短編小説です。
お楽しみ下さい。

深夜0時、梅雨入りしたばかりなので外は雨。にもかかわらず

力チャヤツ

「戸締まり良し、行くか」

俺、十々川桐は、ととかわき傘を差して口課の散歩に行く。
大学に入学し、一人暮らしを始めてからは毎日散歩している。

「雨音を聞きながらいつものも楽しいな……」
不規則なリズムに耳を傾けながら公園に入ると、

「…………雨、やっと降ってくれた」

先客が居た。高校の制服を着て、ピンクの傘を差した女の子だ。

こんな時間に高校生が出歩くのは良くないと思つたので、

「こんな時間に何してるんだ? 早く家に帰りなさい

良い子ぶつて注意してみた。
だが返ってきた言葉は、

「私が見えるの?」

予想していたどれとも違つた。彼女は更に続ける。

「へえ、幽霊が見える人ってホントに居るんだ

……幽靈？何を言つてゐるんだ、彼女は。

「心配してくれてありがとう。私は水谷優。

みずたにゆう
幽靈だから大丈夫よ

優は柔らかく微笑んでそう言つた。

「もう時間だから行かなきや。じゃあ……」

優は手を振りながら、

「また、雨降る夜に会いましょう」

そう言つて、虚空に消えていった。

次の日、天気は晴れ。

いつもの散歩の時間、頭をよぎる彼女の、優の言葉。

『また、雨降る夜に会いましょう』

その日、公園に優の姿はなかつた。

天氣は土砂降り。文句無しの雨。
少し急ぎ足で公園に向かう。

「あつ、来てくれたんだ

一昨日と同じ場所に、優は立つていた。

「毎日歩いてるんだよ」

「そこは『会いに来たんだ』とか言つてくれると嬉しかったな」「……会いに来たんだ」「嬉しくも何ともない……」「

他愛もない会話を交わし、今更ながら自己紹介する。

「俺は十々川桐、大学一年生。毎日この辺を散歩している。優はなんでここに？」

「死んだ場所は遠いんだけど、暇だから漂ってきたー。」

「……ツッコむべき?スルーすべき?」

「スルーでお願いします!」

「承りました。じゃあなんで幽靈だよ?」

「それは……」

そこまで言つて、ゆっくへり天を仰ぎ、

「ゴメン、時間だ。続きたま、雨降る夜に……」

そう言つて、一昨日と同じみうけ消えていった。

一日連續で雨。

やはり公園には優が居た。

「ヤツホー、一日振り!」

「ヤツホー、一日と一分振り!」

「やけに正確だ!?」「

嘘だけど……

「昨日の続き、聞いてもいいか?」

「じうじょうかな~」

「やつぱりいいや、それじゃー…」

泣っているので帰るひとするべ

「わ~、話す話す!話すから待つてーー!」

予想通りの反応が返ってきた。

「じゃあなんで幽霊になつたんだ?」

「傘を使うため」

「…………は?」

「」の傘はね、私が死んだ日に母さんが買つてくれたの。母さんは私が小さい時に離婚して、物心ついてからは、その日初めて会つたんだ

優は更に続ける。

「でも傘を買つてすぐ、私は交通事故で死んじゃつた。でも…………」「でも?」

「傘はじつしても使いたかった。だから初七日の雨の夜、1分だけ現世に来れるの。神様の許可で」

神様つてホントに居るんだなあ……

「もう10分過ぎてるぞ」

「あつヤバい。神様に怒られる!アイツ、怒ると怖いんだよね……」

「」

「神様をアイツ呼ばわりか!?」

「ハハハツ、まあね。じゃあまた、明日雨が降れば……」

手を振つて消えていった。

次の日、霧雨。

視界が霞み、景色がいつもと違つて見える。

「ヤツホー、今日で七日目。お別れですー。」

「あれ、五日目じゃないの?」

「死んだ日と次の日は晴れてたからね」

成る程……

「とゆつ」とで、ありがとね。少しでも話せてよかつた!」

「ああ、じゅりりそ。楽しかったよ」

「昨日の門限破りのせいで、今日はこれで終わり。バイバイ!」

「じゃあな。神様によろしく」

「ハハハツ、任せといてー!」

優の体が薄れしていく。

「それじゃあまた……」

優のお馴染みのセリフに、今日は俺の声も被せる。

「「雨降る夜に……」「

楽しそうな笑い声を残して、優は消えていった。

優しく降り注ぐ、霧雨の中に……

(後書き)

いかがでしたか？

雨を見て思いついたので、すぐに書きました。
慣れないジャンルで、おかしな点が多くあると思いますので、指摘
していただけると嬉しいです！

以上、カルタでした！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8301n/>

雨降る夜に.....

2010年12月18日10時17分発行